

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	社会学					授業形態	講義		
科目コード	120510	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林田 康子								
授業概要	この授業は、われわれの行動や生活の仕方をおとして、現代社会がどのような社会であるのかを学び、今後の社会のあり方を考えていくことを目指した授業である。授業では、自己や人間関係などの身近な問題から、地域社会、国家やグローバル化まで、幅広いテーマを取り上げる。さまざまな角度から、われわれを取り巻く環境としての社会と、社会という環境のなかで行動するわれわれという、社会学の基本的な考え方を理解したうえで、社会問題の解決やこれからの社会の方向性を探る。								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	毎回の授業にて、アクティブラーニング型の授業を導入する。基本的には講義の形態をとるが、授業中は随時学生に質問をしたり、データを分析してもらい、対話型の授業を行う。また、各テーマ（各章）の終了時に小テストを行い、問題提起されていることの理解を促す。								
授業計画 【第1回】	序論 社会学とは何かについて概説する。								
授業計画 【第2回】	自己-1 自己とは何か 自己に関する基本的な捉え方について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	自己-2 第2の近代・自分探し・多元的自己 現代社会および現代社会における自己の変化について学ぶ。								
授業計画 【第4回】	人間関係-1 人間関係の多元化 現代社会における人間関係の特徴を学ぶ。								
授業計画 【第5回】	人間関係-2 純粋な関係性 これからの人間関係のあり方と課題について学ぶ。								
授業計画 【第6回】	家族-1 近代家族・ジェンダー 近代社会における家族の特徴について学ぶ。								
授業計画 【第7回】	家族-2 現代家族 現代社会における家族の特徴について学ぶ。								
授業計画 【第8回】	会社と仕事-1 非正規雇用・日本型雇用システム 現代社会における雇用の変化について学ぶ。								
授業計画 【第9回】	会社と仕事-2 格差・貧困・社会保障 雇用の変化による課題とその解決について学ぶ。								
授業計画 【第10回】	地域社会-1 都市・農村・移民 現代社会における地域社会の変化について学ぶ。								
授業計画 【第11回】	地域社会-2 消費農村論 現代農村社会を分析する視点について学ぶ。								

授業計画 【第12回】	文化と流行-1 文化・流行とは何か 文化・流行の定義と、流行が表す現代社会について学ぶ。
授業計画 【第13回】	文化と流行-2 自殺 現代社会における自殺と自殺対策について学ぶ。
授業計画 【第14回】	グローバリゼーション-1 グローバリゼーションとは何か グローバリゼーションの定義と特徴について学ぶ。
授業計画 【第15回】	グローバリゼーション-2 リスク・ナショナリズム・共生 グローバルな社会の課題について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会で発生している社会現象や社会問題をとおして、われわれがどのような社会生活を送っているのかを理解できるようになる。【知識・理解】 2. われわれを取り巻く現代社会の状況を具体的に理解できるようになる。【知識・理解】 3. 社会的状況が、われわれの行動や社会生活に影響を及ぼしていることを理解できるようになる。【知識・理解】 4. 社会学的な分析視点や理論を理解できるようになる。【知識・理解】 5. 現代社会を分析できるようになる。【汎用的技能】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修 【予習】	授業中に次回の授業範囲を示すので、プリントを読んで概要をつかみ、わからない点を整理しておく。(約1時間) 参考文献を読み、テーマや社会学の発想について理解を進めておく。(約1時間)
授業時間外の学修 【復習】	各テーマ(各章)の終了時に小テストを実施するので、毎回授業内容を振り返り、要点を整理しておく。(約2時間)
課題に対する フィードバック	小テストは評価後、返却および解説をする。 定期試験は試験後に解説する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 定期試験(70点) 2) 小テスト(30点)
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配付する。
参考書	プリントで紹介、引用されている諸文献。 アンソニー・ギデンズ、2009、『社会学』而立書房。 長谷川公一ら、2019、『社会学』有斐閣。
備考	